

兵医広報に関する アンケート に、ご協力ください



本誌の前身「兵庫医科大学広報」が1973年に創刊されてから、50年以上が経ちました。長年にわたり温かく見守ってくださっている皆さまに、心より感謝申し上げます。これからも本誌を通じて学校法人兵庫医科大学の活動をより身近に、よりわかりやすくお伝えするため、このたびアンケートを実施いたします。誌面のご感想や印象に残った記事、今後取り上げてほしいテーマなど、どうぞお気軽にお寄せください。



※お送りいただいた情報、ご意見・ご感想は誌面づくりの参考としてのみ使用させていただきます。

わたしに パワーを くれるもの。

EMPOWER THE PEOPLEのスローガンを掲げ、医療を通じて人を、そして社会をより良いものにするために、日々奮闘する職員たち。そんな彼女らにとって、自身の**パワー**をみなぎらせるものとは。



西村 明子
NISHIMURA AKIKO
兵庫医科大学
看護学部 看護学科
家族支援看護学 教授

季節の移ろいと日常の発見に 心癒される通勤路の楽しみ

通勤で駅まで歩く時間に、道沿いの木々や草花の様子を見るのが好きです。大きな桜や銀杏並木、夏の涼しい影を作るナンキンハゼが、冬にはきれいに剪定されていて、「ああ、今年もそんな季節か」と思います。保育園の近くを通ると、園児たちが立ち止まり、目に映るものすべてに興味を向けながら歩く様子が愛らしく、日常の小さな発見を分けてもらっている気がします。帰り道には、藍色の空に白い雲が絵のように浮かんでいるのを眺めるのが楽しみです。木々も空も、毎日少しずつ姿を変えながら私と一緒に年を重ねているように感じ、自分も宇宙の一部だと考えると、大きなものに守られているような気がして心が落ち着きます。



兵医広報

EMPOWER THE PEOPLE

心に響く医を、
私たちが
いるかぎり

vol.
272
2026
WINTER



SPECIAL 2

学びと出会いの365days

EVENT SCHEDULE

SPECIAL 1

2026
年頭のごあいさつ



2026 年頭のごあいさつ



CHIKARA TASHIRO
学校法人兵庫医科大学
理事長

太城 力良

選ばれる大学、病院に。

2026年の年頭にあたり、謹んで新年の寿ぎをお慶び申し上げます。本法人は2022年3月に開学50周年を迎えました。建学の精神である「社会の福祉への奉仕」「人間への深い愛」「人間への幅の広い科学的理解」に基づき、新たに「EMPOWER THE PEOPLE～心に響く医を、私たちがいるかぎり～」というスローガンを掲げ、次の50年に向かって、未来を切り拓く教育・研究・診療の創造に挑戦し、広く社会に貢献する医系総合大学を目指しています。近年の少子化が進行する中で、兵庫医科大学が未来の医療を担うプロフェッショナルで優れた人材をさらに育成・輩出するためには、より質の高い入学生を確保し、学修指導を強化することが不可欠です。プロフェッショナリズムとは、知識と技術に加えて、相手を思う“まなざし”と謙虚さを持ち続けることであり、サービス精神とは、相手を尊重する知性であると認識しなければなりません。これらを実践することで、患者や学生が心を開くだけでなく、職場の雰囲気も良くなり、教育や診療の質が向上し、医療安全も担保されます。それこそが、本学全体のブランド力を高め、「選ばれる大学」としての地位を築くことにつながると考えます。さらに、ブランド力を高めるために重要なことは、すべての構成員が自らの大学に誇りを持ち、モラル(morale：士気)を高めることです。モラルとは、労働意欲や学習意欲など、

集団の活動性の度合いや団結の強さを表すものです。自分が集団の一員であることを自覚して共通の目標を持ち、仕事にやりがいを感じられ、内部に分裂のない良好な人間関係がモラルを高める条件です。心理的安全性の高い職場づくりはその第一歩であり、また、教職員の職場外での生活も満足できるものでなければなりません。今年9月には新病院棟のオープンを予定し、兵庫医科大学病院には、医療人材の派遣、高度医療の提供、広域診療機能が求められています。これはまさに建学の精神を具現化することに他なりません。そのために、財務基盤を確立し、業務プロセスを見直し、構成員一人ひとりが自己の学習と成長に対する意欲を持ち、生き生きと働く姿勢が重要です。本年は、丙午の年。丙は太陽のように明るく、物事を照らし育む火の性を持ち、午は前進と活力を象徴します。丙午の情熱と行動力にあやかり、学校法人兵庫医科大学のさらなる発展に向けてのご協力をお願いすると共に、今年も皆さまにとって健康で幸せな一年となることをお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

新しい年を迎え、
教育・研究・診療のさらなる発展を期して。
本法人の未来への想いと決意を語ります。



KEIICHIRO SUZUKI

新病院棟開院と教育改革の推進。

明けましておめでとうございます。2026年は新病院棟が竣工し、「Human Centered Hospital」として9月に開院予定です。教育面では各フロアに電子カルテ端末を備えた教育専用スペースが誕生し、診療参加型臨床実習や多職種連携教育の充実に寄与することが期待されます。2027年度からは医学部・看護学部に加えて、薬学部・リハビリテーション学部の全学生が当院で高学年における実習を行い、また4学部

兵庫医科大学病院
病院長

心をひとつに、熟慮と断行を。

新年あけましておめでとうございます。皆さまにおかれましては、希望に満ちた新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。2023年から始まった新病院棟の建設も概ね順調に進み、2025年9月には上棟式を無事に終えることができ、本年9月の開院に向けて準備を進めているところで。現在の1号館は建築後、約50年を経過していましたので、療養環境に関するご意見を患者さんから多くいただいておりました。このようなご意見も参考にしながら、新病院棟の建設を進めてまいりましたので、療養環境は格段に向上する予定です。多くの診療科では、疾患別の病棟編成となりますので、内科で診断し、外科で手術となった患者さんも転棟の必要なく治療を続けることが可能になります。一方、昨年からの多くの報道が

鈴木 敬一郎

兵庫医科大学
学長

合同の多職種連携総合臨床実習も増加させ、中期事業計画の「プロフェッショナル教育と多職種連携教育により自律的で未来志向の医療人を育成する」を具現化したいと思います。講義では、教育のIT化と学修支援を強化し改革を継続します。西宮キャンパスの医学部における知識伝達はオンデマンドの体系的ビデオに移行し、PC端末を用いた試験のCBT化や双方向教育、少人数教育、実習の充実化に努めます。神戸キャンパスでは、講義室のコンセント増設工事を行いBYOD(Bring your own device)を促進し、薬学部の伴走型学修支援などにも役立てたいと思います。最後に、良好な国家試験成績は生命線です。今後も学生・教職員一丸となって国家試験対策に取り組みます。そして、教育・診療だけでなく、大学院を充実させ本学発のオリジナリティある研究を推進し、学生諸君が愛着と誇りを持てる大学を目指します。



HIROKI IKEUCHI

あるように、診療報酬は公定価格であり、物価や賃金の上昇に対応して上がらないため、病院経営は非常に困難な状況に陥っています。阪神間では病院の合併に伴う新たな医療機関も多く、これまで以上に競争が激化することが予想されます。地元を大切にした病診・病病連携をさらに進めてまいります。そして皆さまに信頼され、選ばれる病院であり続けるために、全職員が心をひとつにして“熟慮と断行”をキャッチフレーズとして精進してまいります。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

繋げ、
兵医の
メッセージ

EMPOWER THE

Baton

EMPOWER THE PEOPLE ～心に響く医を、私たちがいる限り～
兵庫医大のスローガンで考える、自分のこと、兵医のこと。

vol.

4

様々な疾患に対応する部署として、新たな知識を身につけながら苦手な分野にも積極的に取り組み、患者さんが安心できる一歩先の看護を提供していきたいです。

新病院棟ができたら挑戦してみたいこと

一歩先の看護へ

HCU 看護師 西井 誠

新病院棟の新しい環境を活かし、患者さん一人ひとりの“やりたい”を叶えるリハビリに挑戦し、“できた”と一緒に喜べるリハビリを広げていきたいです。

新病院棟ができたら挑戦してみたいこと

患者さんの
“できた”と
一緒に喜ぶ

リハビリテーション技術部 主任 理学療法士 柳田 亜維

患者さんとご家族が、新病院棟でも安心して医療を受けながら生活を送ることができるよう、関わる方々との繋がりを大切に支援を行っていききたいと思います。

新病院棟ができたら挑戦してみたいこと

繋がり

医療社会福祉部 ソーシャルワーカー 田中 志歩

堅固な地域連携を基盤に、手術体制の拡充と精密医療の深化を進め、臨床研究を進展させ、次なる医療のステージへ挑みます。

新病院棟ができたら挑戦してみたいこと

共創で築く
次世代医療

泌尿器科 准教授 齊藤 亮一

医師の事務負担軽減に努めながら継続的なスキルアップに取り組み、MAとして当院で働く魅力を広く伝え、「ここで働きたい」と思ってもらえる存在を目指します。

新病院棟ができたら挑戦してみたいこと

さらなる
スキルアップ
と
MAの周知
医師事務作業補助者

医療マネジメント課 脳神経外科MA 福満 史子

新しい環境で多様な診療科を経験し、大学病院ならではの疾患や検査を網羅的に学ぶことで、あらゆる疾患に対応できる臨床能力を身につけたいです。

新病院棟ができたら挑戦してみたいこと

網羅的に学ぶ

医学部4年生 井藤 将大

あの人の **素顔** に迫る。



今月の プロフェッショナル。



抗HIV治療を支える薬剤師。
「薬薬連携」の仕組みを構築

01 誰もやっていない仕事をしてみたい

HIV感染症専門薬剤師とは、その名の通り、HIV感染症の患者さんが適切に薬を服用できるよう支援する仕事です。私が入職して間もない頃、がんや感染症の専門薬剤師はいたものの、HIV感染症の専門薬剤師はいませんでした。そこで私は「誰もやっていないことをやってみたい」という思いから手を挙げ、それから約17年、この分野に関わり続けています。新しい仕事への関心から足を踏み入れましたが、取り組むほどに、薬剤師が力を発揮できる場面が多く、やりがいを感じています。近年、抗HIV治療薬の進歩により、HIV感染症は治療可能な慢性疾患となりました。しかし、AIDSの発症を防ぐためには、原則として薬を

決められた通りに継続して服用することが欠かせません。患者さんご自身が治療内容をよく理解し、積極的に服薬に取り組めるよう私たちがサポートすることが大切です。抗HIV治療薬は今でこそシンプルになりましたが、当時は種類が多く、その中から患者さんにとって最適な薬を検討するところから始まりました。服用回数や時間、副作用の違いなどを踏まえ、患者さんの生活スタイルに合わせた薬と一緒に検討していったのです。最終的な決定は医師が行いますが、他の疾患とは異なり、薬剤師が薬の選択まで踏み込めるプロセスにはやりがいがあります。

02 「薬薬連携」構築の意義と道のり

HIV感染症の患者さんの多くは外来で治療を受けているため、薬の継続的な服用のためには、病院だけでなく、処方箋を介して日頃から患者さんに接している保険薬局との協力が不可欠です。検査結果の数値など病院でしか得られない情報、服用状況などの薬局でしか得られない情報を、病院薬剤師と薬局薬剤師が共有して支援する仕組み。それが「薬薬連携」です。現在では、病院薬剤師と保険薬局の薬剤師が患者情報をトレーニングレポート※で共有していますが、当時はフォーマットも運用方法もなくゼロからの構築でした。HIVに対する偏見への配慮も必要で、トレー



シングレポートには患者さんの氏名やIDを記載せず、連携する薬局と病院薬剤部だけが共有する独自の連携番号を導入するなど、個人情報の扱いには特に気を配りました。保険薬局では抗HIV治療薬のみを扱っているわけではないので、疾患や薬について理解してもらい、協力してもらうまでに3年ほど時間を要したでしょうか。現在、薬の進歩によりAIDSの発症は抑えられるようになっています。しかしそれは、治療を長く続ける患者さんが増えているということでもあります。高齢化に伴い他の病気を併発するケースもあり、これからは薬局薬剤師と連携しながら、増加する患者さん一人ひとりをより丁寧にフォローしていきたいと思っています。

03 患者さんからの感謝が喜びに

あるとき、転居に伴い県外の病院へ転院される患者さんが挨拶に来られました。薬の説明や相談などの用もなく、わざわざ会いに来てくださったのです。その方とは4～5年のお付き合いだったのでしょうか。「今までありがとうございました」と言ってくださったことが本当にうれしかったです。自分としては当たり前のことをしていただけですが、「少しでも力になれていたんだ

な」と心に響くものがありました。また、この分野に長く携わってきたことで院外で指導的な役割を担う機会も増えています。薬薬連携という仕組みを、まだ導入していない施設へ紹介・普及する取り組みや、若手の薬剤師に専門薬剤師の仕事を知ってもらう活動にも力を入れています。こうした取り組みが、最終的には患者さんを支えることにつながると思うからです。

※トレーニングレポート：保険薬局の薬剤師が患者から聞き取った、緊急性は低い医師に共有すべき情報（アドヒアランス、副作用、残薬、OTC薬の併用など）を医師に伝えるための文書



日笠 真一 HIKASA SHINICHI

兵庫医科大学病院
薬剤部
課長

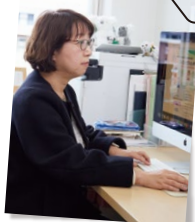
HIV感染症専門薬剤師。2006年、大阪大学薬学部を卒業し、同年、兵庫医科大学病院薬剤部に入職。調剤、製剤、病棟業務などを経て、現在は急性医療総合センターにてプレイングマネージャーとして勤務し、ICU、EICU、NICUなどをはじめとする集中治療部門を担当。HIV感染症の薬剤師業務も兼任。休日は子どもたちと釣りにでかけるなど、家族との時間を楽しむ。

HYO-INNOVATION

— 明日の医療を支える、知の挑戦 —



社会が、未来がより良くなるために、
いったいどんなことについて
研究しているのだろう。
先生の頭の中、のぞかせてください！



西村 明子

NISHIMURA
AKIKO

兵庫医科大学 看護学部 看護学科 家族支援看護学 教授

2010年に、大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻博士後期課程修了。博士（看護学）取得。
主な研究テーマは「母性看護学」や「統合失調患者の妊娠・出産」、「父親の産後うつ病」などのメンタルヘルスを中心とした研究も行っている。

This month's

研究 内容

慢性疾患患者がより良い妊娠・出産に向かうために、
看護職者が取り組む **プレコンセプションケア** とは

01

“ 患者さんの不安に
じっくりと耳を傾けることから ”

プレコンセプションケアとは、妊娠前の健康管理を意味する。妊娠前の母体の健康状態は、母親自身の身体はもちろん、生まれてくる赤ちゃんにも大きく影響する。そのため、妊娠可能な年齢にあるすべての女性が、計画的に身体を整えていくことが望ましい。特に慢性疾患を抱える人は、胎児への影響が少ない薬剤への切り替えや不妊治療の早期開始など、事前の対策が重要となる。西村教授は「慢性疾患の患者さんにとって、病状が不安定な時期の妊娠はリスクが高いんです。病状が悪化したり、流産につながることもあります」と述べ、医療者による適切なサポートの必要性を説く。こうした背景を受け、当院では2020年1月にプレコンセプションケアに関する取り組みを開始した。毎月1回、看護外来でリウマチ膠原病、IBD（炎症性腸疾患）、糖尿病などの患者さんを対象にケアを実施している。具体的にどのような

支援を行っているのか。西村教授は「まず、患者さんの話を時間をかけて聴くことから始まります」と語る。ひとくちに慢性疾患と言っても病状は人によって異なり、妊娠に対する考え方や不安もさまざま。多くの患者が漠然とした不安で受診する一方で、妊娠中など「知りたいこと」が明確なケースも多く見られる。看護職者は、丁寧な傾聴を通じて、顕在化した疑問を整理しサポートすることができる。「今は私たちも患者さんから学ばせていただいている段階です。患者さんはこんな悩みを持っているのかと気づかされることも多いんです」。適切な情報提供はこうした対話から始まっていく。



02

“ 看護職者の知識と
実践力の向上にむけて ”

プレコンセプションケアに関する取り組みを開始後、西村教授は院内の看護職者を対象に調査を行った。慢性疾患患者をケアする看護師が、プレコンセプションケアにどのようなニーズを持っているかを明らかにする目的だ。その結果、多くの看護職者がプレコンセプションケアの必要性を感じている一方で、実際にケアを提供する自信がないと回答した。つまり、看護職者に対する十分な情報提供と教育が求められている。西村教授は「まずは知っていることが大事。看護職がプレコンセプションケアについて少しでも

理解していれば、患者さんに思いを聞くことができます。でも、まったく知らなければ問いかけることすらできません」と話す。看護職者が医師や他職種と

連携し、慢性疾患患者に対してプレコンセプションケアを実施している例は、現状ではほとんど見当たらない。そういう意味でこの取り組みは先進的であり、希少性も高い。今後は多職種で連携しながらプレコンセプションケアを推進していくことが課題だと捉えている。西村教授は「学生の頃の実習で出産に立ち会い、赤ちゃんの産声を聞いたとき、魂がゆさぶられるような思いがしました。そのときに、この仕事で生きていこうと決めたんです」と自身の原点を振り返る。以来、「母性看護学」や「助産学」を軸に、看護職の視点から女性のライフステージと健康に関する研究に取り組んできた。また、「父親の産後うつ病」も西村教授の主要な研究テーマの一つである。妊娠・出産は女性の問題と捉えられがちだが、家族コミュニティの生涯にわたるテーマとして、男女を問わず、家族全員が日々健やかでいられるための支援のあり方を追求している。



HYO-I FOCUS



薬物療法後に消失した大腸がん肝転移病変の 画像診断と術後診断の一致率は62.5%



消化器外科学(下部消化管外科)講師 片岡 幸三は、国立研究開発法人国立がん研究センター中央病院が中央支援機構を担い支援する日本臨床腫瘍研究グループ(JCOG)の大腸がんグループと、欧州の臨床試験グループであるEuropean Organisation for Research and Treatment of Cancer(EORTC)と共同で、薬物療法を行い

消失した大腸がんの肝転移病変について、画像で腫瘍の遺残を予測可能か評価する研究(DREAM study)を行いました。本研究の結果、術前の画像診断と術後診断との一致率は62.5%で、画像診断のみで腫瘍細胞の有無を完全に予測することは難しいことを明らかにし、その成果が科学雑誌「JAMA Surgery」に掲載されました。

タイトル

Diagnostic accuracy of CT/MRI in assessing non-viability of Disappearing Colorectal Liver Metastasis

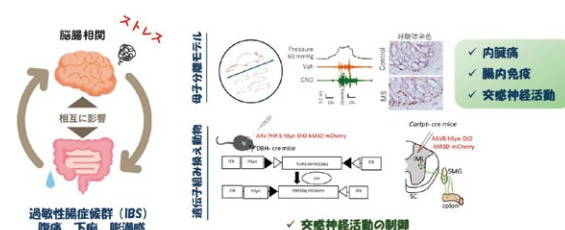


ストレスが 腸の痛みを悪化させる仕組みを解明



解剖学神経科学部門 助教 段 韶琪、主任教授 戴 毅らの研究グループは、幼少期ストレスモデルを用いた実験により、ストレスによって活性化された交感神経が大腸粘膜に好酸球を集め、炎症と痛みを引き起こすことを明らかにし、さらに、この反応が「エオタキシン-1」という物質を介して生じることを発見しました。本研究は自律神経と腸管免疫の新たな関係

を示す成果であり、過敏性腸症候群(IRS)の原因解明や新規治療法の開発につながることを期待され、米国消化器学会誌『Cellular and Molecular Gastroenterology and Hepatology』に掲載されました。



タイトル

Sympathetic Overactivation Drives Colonic Eosinophil Infiltration Linked to Visceral Hypersensitivity in Irritable Bowel Syndrome



口腔環境を整える 共生細菌の候補を発見



歯科口腔外科学 主任教授 岸本 裕充、臨床教授 野口 一馬、歯科口腔外科 病院助手 塙 莊太郎、病原微生物学 主任教授 石戸 聡らの研究グループは、口腔癌患者と健康者の唾液細菌叢を解析し、癌発症や進行に伴い減少する善玉菌群(Rothia属とStreptococcus属)を特定しました。さらに、Rothia属とStreptococcus属の間に強い相

関を見出し、代表種であるRothia dentocariosaがStreptococcus salivariusの生存を支援することを明らかにしました。これにより、プロバイオティクスとして両菌種を同時投与することによって、より安定で健康的な口腔環境の維持を期待できる可能性が示されました。この論文は「Microbiology spectrum」に掲載されました。

タイトル

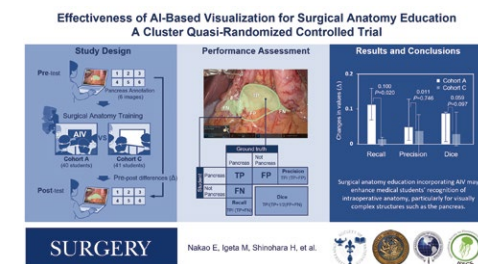
Identification of beneficial symbiont candidates in commensalism as potential oral gatekeepers



AIで医学部生の解剖学的構造理解をアシスト 学術誌「Surgery」に論文掲載



消化器外科学(上部消化管外科)助教 中尾 英一郎、主任教授 篠原 尚、生物統計学 准教授 井桁 正亮らの研究グループは、人工知能(AI)がリアルタイムで手術画面上の臓器をハイライト表示する「AI視覚化システム」を活用し、特定の臓器を着色することで、医学部生の解剖認識力が向上するかを検証しました。その結果、同システムを使用し手術観察教育を受けた学生は、使用しなかった学生に比べて脾臓などの複雑な臓器をより正確に認識できるようになったことが示唆されました。この結果は、学術誌「Surgery」に掲載されました。



Best Basic Science Abstract Awardを受賞



精神科神経科学 助教 山西 恭輔は、アメリカのテネシー州で行われた15th Annual American Delirium Society Conferenceにて、Best Basic Science Abstract Award

を受賞しました。この賞は、せん妄研究における優れた基礎科学研究を発表した者に授与されます。

タイトル

The epigenetic investigation of human induced microglia-like (iMG) cells derived from patients with post-operative delirium after liver transplant surgery



第62回日本消化器免疫学会総会にて 奨励賞を受賞



精神科神経科学 博士研究員 本山 美久仁が第62回日本消化器免疫学会総会にて、奨励賞を受賞しました。この賞は、若手を対象とした応募者の中から優秀な演題に授与されます。

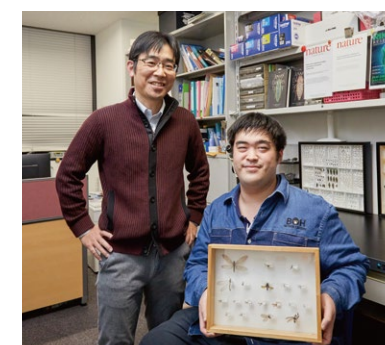
タイトル

グルテン不耐症の臨床的特徴と抗グリアジンIgG抗体の有用性に関する検討



「ケカゲロウ」を奄美諸島から採集し、 琉球大学発行の学術誌 「Fauna Ryukyuna」に掲載

医学部4年生 井藤 将大さんは、生物学 准教授 菅原 文昭の助言のもと、日本では本州などで生息が確認されていたケカゲロウを、奄美大島で採集された個体を元に奄美諸島での初記録として「Fauna Ryukyuna」で報告しました。ケカゲロウはアミメカゲロウ目昆虫の1種で、幼虫はシロアリを捕食します。本成果は大陸から日本列島に至るケカゲロウの分布に新たな情報を提供しました。



TOPICS

兵医の注目トピックス



2025年度 白衣授与式を挙

2025年10月17日、兵庫医科大学 平成記念会館にて「2025年度 兵庫医科大学 白衣授与式」を挙行し、第4学年次医学部生118名に対し、白衣の授与が行われました。



共用試験(CBT、OSCE)に合格した学生たちは、兵庫医科大学病院の各診療科で実習を行います。回診やカンファレンスへの参加、手術や外来診察・検査の見学などを通じて臨床医としての素養を身に付け、指導医の監督の下、医師キャリアへの新たな一歩を踏

み出します。式典中、少し緊張した面持ちの学生たちは一人ずつ名前を呼ばれると壇上に上がり、保護者の方が見守る中、教員から着せてもらった白衣に袖を通しました。



VIA university Collegeとの 学生交流を実施

デンマークのVIA University Collegeから日本の理学療法を学ぶことを目的に学生3名が来学し、本学リハビリテーション学部理学療法学科の学生と国際交流を行いました。

当日の交流内容は、理学療法学科の学生が主体的に立案したもので、両大学の学びの特徴や理学療法制度について、英語でのプレゼンテーションを実施。さらに、人工関節全置換術を受けた患者さんへの動作指導をテーマに、各国のライフスタイルに合わせた指導内容を実演しながら意見交換を行いました。学生たちは英語力に関わらず、積極的にコミュニケーションをとり、異文化への理解と理学療法への新たな視点を獲得する貴重な機会となりました。



International Student 留学生たちの

Reports



研修レポートや
留学に関する
情報はこちら

本学は、フィンランドのトゥルク応用科学大学(通称:TUAS)Health and Well-being学部と国際交流協定を締結しています。

今年度の看護学部とリハビリテーション学部における10日間の留学プログラムでは、授業や演習への参加、医療・福祉機関の見学を通して、現地学生との交流を深めました。

フィンランドの医療現場や看護教育を学ぶことで、日本が持つ強みに気づくことができました。国境を越えて学び、日本の医療教育を客観的に見つめ直せたことが最大の成果です。
看護学部看護学科4年 江崎 陽義

いっしょに
折り鶴



主体的な学び方や高齢者支援に対する日本との考え方の違い、リハビリ領域でのデジタル技術の活用に触れ、科学的根拠だけでなく、人の尊厳や自立を支える文化的視点の重要性を改めて実感しました。
リハビリテーション学部理学療法学科4年 大東 千夏

はじめての
VR体験...



一番興味深かった急性期精神科病院では「精神疾患は誰でもかかってくる病気」という考えのもと、「開かれた場所」として設計されていました。偏見なく平等を重視する姿勢を学び、症状だけでなく「人」と向き合い、患者さんへの尊敬を忘れず頑張りたいです。
リハビリテーション学部作業療法学科4年 木村 茉那

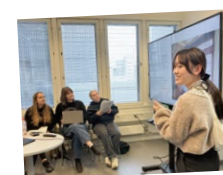
1・2
DM

- ・関西空港から飛行機でヘルシンキへ!
- ・ヘルシンキからトゥルクへ鉄道で移動



3
DM

- ・歓迎会とオリエンテーション
- ・TUAS学生によるキャンパスツアー (Kupittaa Campus)
- ・フィンランドと日本の医療・教育制度について学ぶ
- ・TUAS学生とのアイスブレイク
- ・TUAS学生企画プログラム



4
DM

- ・Salo Campus and Campuskoti Merihelmi 訪問
- ・TUAS学生企画プログラム

5
DM

- ・実習、シュミレーション



6
DM

- ・Turku University Hospital (TYKS) 訪問、見学
- ・TUAS学生企画プログラム

7
DM

- ・最終プレゼンテーション
- ・トゥルク観光

8
DM

- ・自由行動



9・10
DM

- ・トゥルクからヘルシンキへ
- ・ヘルシンキから関西空港へ到着



観光もすっかり
トゥルクを満喫♪

NEWS

兵医の気になるニュース



包括的な連携協力を推進 兵庫県立大学と協定を締結



2025年10月23日、本学と兵庫県立大学は工学分野で培ってきた連携を今後さらに発展させるとともに、包括的な連携を推進するため協定を締結しました。この協定は、教育研究活動全般の交流及び相互連携の推進、相互の教育研究の一層の進展と地域社会への貢献、国際社会の発展に資する取り組みを積極的に進めることを目的とし、より質の高い教育の提供や学術研究のさらなる充実、地域及び国内外の課題解決に向けた社会貢献に取り組みます。



共同研究や地域貢献、 学生の交流で連携を強化 武庫川女子大学と包括連携協定を締結

2025年10月20日、本学と武庫川女子大学は互いを補完しあいながら大学としての機能を強化し、より高度な知見を社会に還元するとともに、地域活性化を目指すことを目的に協定を締結しました。この協定をもって、教育資源・施設等の相互利用に加え、共同機器利用や研究支援の協力体制を整備し、幅広い学術領域での共同研究へと発展させます。



令和7年度 兵庫医科大学 篤志解剖体慰霊祭を举行



医学教育・研究並びに医療の発展のため、本学へご献体いただきました方々に深く感謝し、ご冥福をお祈りすることを目的に、2025年10月21日に「令和7年度兵庫医科大学篤志解剖体

慰霊祭」を举行了。当日はご遺族をはじめ約500名が参列し、70柱の御霊に黙祷を捧げた後、学長・病院長による慰霊の詞、学生代表による謝意の詞が述べられ、参列者による献花を行いました。



2024年度 兵庫医科大学教員活動奨励賞を授与



内部質保証活動の一環として、2024年度における全教員の教育・研究・診療・大学運営・社会貢献などの活動を調査・評価しました。その結果、上位者として25名の教員が教員活動奨励賞を受賞し、各学部長より賞状と副賞を授与しました。

▼受賞者

〔医学部〕江嵜 啓祥、片岡 幸三、河合 建一郎、児玉 大志、作間 未織、佐藤 寿行、庄司 拓仁、菅原 文昭、高橋 敬子、鏑本 浩志、中村 晃史、蓮池 由起子、福井 広一、福田 昭、藤原 範子、藤原 康宏、古瀬 明里、宮本 和徳、室井 みや、和田 玲緒名
〔薬学部〕大野 喜也、田端 千春
〔看護学部〕井上 満代、藤井 加那子
〔リハビリテーション学部〕荻野 智之



2025年度 神戸キャンパス大学祭 「第17回 海泉祭(かいきょうさい)」を開催



2025年10月18日～19日の2日間、神戸キャンパスにて、第17回大学祭「海泉祭」を開催しました。今年のテーマは、「Our Palette」。3学部の個性を活かした学部別イベントや、

メインステージでのクラブ・サークルによるパフォーマンス、よしもとお笑いライブが行われ、大変盛り上がりしました。2日間で約900名が来場され、盛況のうちに終了しました。



2025年度 西宮キャンパス大学祭 「第54回 醫聖祭(いせいさい)」を開催



2025年11月8日、西宮キャンパスにて、第54回大学祭「醫聖祭」を開催しました。元タレントの山口 達也氏の講演会や豪華景品のビンゴ大会、模擬店、室内楽団や軽音楽部の演奏会、

マジック研究部やダンス部のパフォーマンス、神戸キャンパス書道同好会の展示等が実施され、学生が丸となって取り組み、今年度のスローガンである「ONENESS」にふさわしい大学祭となりました。



「虹の学校」講演会を開催 本学学生2名がパネリストとして参加



2025年10月25日、様々な理由から就学機会のなかった子どもたちに教育や生活の支援を行うタイ政府公認の学習センター「虹の学校」校長の片岡 朋子さんによる講演会が本学にて開催されました。講演後のパネルディスカッションでは、本学ボランティア部の医学部3年生 高良さんと医学部2年生 渡邊さんが登壇し、共催者であるシンガーソングライターの小野 亜里沙さんと交えて「本当の豊かさ」についての意見交換が行われました。



新たな連携のきっかけに 兵庫医科大学合同研究発表会を開催



2025年11月26日～27日の2日間、兵庫医科大学合同研究発表会を開催しました。学部を超えた研究シーズやニーズの共有を通じ、研究者間の連携強化を目指すイベントです。ポスター掲

示に加え、2日目午後にはフラッシュトークとポスターセッションを実施。本学研究者11名と関西学院大学から3名が発表し、発表者と参加者の間で活発な議論が交わされ、新たな連携が期待されます。



第6回CNS/CN活動 実践報告会を開催



2025年8月27日、「第6回CNS(専門看護師)／CN(認定看護師)活動実践報告会」を開催しました。本報告会はCNS/CNの専門性や活動を広く紹介し、リソースとして活用

してもらうことを目的に実施しています。今年度は地域連携を図るため外部施設にも案内し、当日は教育講演やシンポジウム、ポスターセッションで活発な意見交換が行われました。

NEWS

兵医の気になるニュース



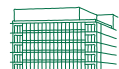
大学病院

西宮市救急・看護功労者表彰 当院の看護師15名が受賞



2025年9月3日、西宮市役所にて「2025年度 西宮市救急功労者表彰 看護功労者表彰」の表彰式が執り行われました。この表彰は、看護業務における功績をたたえるもので、当院からは

様々な分野で看護業務に精励し、地域医療へ貢献する姿勢が高く評価された15名の看護師が表彰されました。表彰式に出席した看護師らには、西宮市の石井 登志郎市長から直接表彰状が手渡されました。



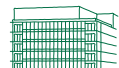
大学病院

フロアコンシェルジュの 運用を開始



2025年12月1日より、院内各フロアを巡回し、患者さんのご案内や車イスの介助などに対応する「フロアコンシェルジュ」の運用を開始しました。当院を

ご利用いただく患者さんやご家族に寄り添い、院内での利便性や快適性を高めることで、より質の高い患者サービスの提供を目指します。



大学病院

医療の現場を“体験”して学ぶ 事務職員研修の取り組みが 医療業務総合情報誌に掲載



病院事務部 医療マネジメント課 課長補佐 坂田 英敏が第27回日本医療マネジメント学会学術総会で発表した「事務職員向け手術見学研修」の取り組みが、医療業務総合情報誌「医事業務」に

掲載。手術見学やシミュレーターによる腹腔鏡の模擬操作など体験型研修で医療現場の理解を深め、多職種連携や業務の意識向上につながる取り組みとして注目を集めました。



大学病院

看護部1年目・2年目 交流会を開催



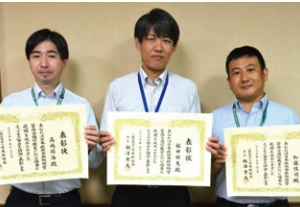
入職1～2年目の看護師を対象に、フォローアップとキャリア育成を目的とした研修を実施しました。研修後は、看護人材開発センター主催の「看護部1年目・2年目交流会」を初開催

し、普段は異なる部署や病棟で働く看護師同士で食事をしながら交流を深めました。開催後のアンケートでは多くの参加者から満足度の高い回答が得られました。



大学病院

職員3名が病院経営管理士に認定 成績優秀者として表彰



2025年9月26日、病院経営管理士通信教育 第46回 認定証授与式が行われ、当院の職員3名が「病院経営管理士」に認定、表彰されました。「病院経営管理士」は病院の管理・運営を円

滑かつ積極的に遂行できる能力と適応力を備えた人材の育成を目的とした資格で、レポートや試験などの成績を総合的に評価した結果、成績上位者として選出されました。



大学病院

日本医師事務作業補助者協会 第14回学術集会にて MA 荻野 弥寿子が優秀演題賞受賞



2025年10月19日、当院のMA（メディカルアシスタント）である荻野 弥寿子が「日本医師事務作業補助者協会 第14回学術集会」にて優秀演題賞を受賞しました。MAとは、医師の指示

のもとで医師の事務作業である、診断書等の文書作成補助や医療の質の向上に資する事務作業などを行う重要な職種です。



INFORMATION

法人からのお知らせ

兵庫医科大学 開学50周年記念事業募金 状況報告

「兵庫医科大学開学50周年記念事業」のための募金活動を開始し、教職員・名誉教授の方々をはじめとして、後援会（保護者）、同窓会（緑樹会、海泉会）、企業等法人、関連病院など幅広い方々から温かいお申し込みを賜り、厚く御礼申し上げます。ご協力賜りました方々のご芳名を掲載させていただき、改めて感謝の意を表したいと存じます。

（～2025.10.31）

区分	受配者指定寄付金		特定公益増進法人		合計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
申込	245	998,240,000円	695	360,011,888円	940	1,358,251,888円
入金	245	998,240,000円	695	358,766,888円	940	1,357,006,888円

寄付申込者ご芳名・法人名一覧（順不同）

企業等法人 株式会社エイチ・アイ様／株式会社エム・シー様／株式会社共英メソナ様

同窓会 匿名1名

その他個人 土山 雅人様[100,000円]／多井 洋子様／高橋 清様／檜山 則子様 他匿名2名

（2025.9.1～2025.10.31）



校歌・学生歌はこちら

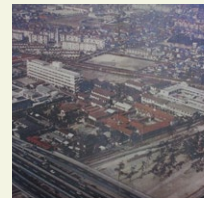
兵庫医科大学

開学から

53年が経ちました！

11.22は
創立記念日

本学の創設者である森村 茂樹は、1947年に31歳という若さで武庫川脳病院の院長に就任しました。地域医療や社会福祉に尽力し、1959年には武庫川脳病院を新武庫川病院として総合病院化、1971年11月22日に兵庫医科大学の設置が認可されました。翌1972年には兵庫医科大学の開学、兵庫医科大学病院が開設し、現在に至るまで3つの建学の精神が受け継がれています。今後とも兵庫医科大学の活動へご支援を賜りますようお願い申し上げます。



新武庫川病院など全景



創設当時の武庫川脳病院

